

講義名	オ)地域経済論			
担当教員	丸山 亜希子			
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 2時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考
主題と概要				
<p>現在、日本では東京の一極集中が進み、他の地域はそれぞれ地域活性化に力を入れている。各地域を発展させるためにはどうしたらよいのだろうか。また、なぜ東京一極集中が進んでいるのだろうか。本講義では、まず経済データを用いて日本の人口移動および産業集積について過去から現在にかけての状況を確認する。そして、産業集積が都市や地域を発展させる上で非常に重要な役割を担っている事を学んだ上で、集積を応用した都市・地域発展政策を考える。また一方で、地域間格差などの日本が直面している地域問題の現状と課題についても理解を深める。</p>				
到達目標				
<p>産業集積が都市や地域を発展させる上で非常に重要な役割を担っている事を理解できるようになる。 集積の経済的観点から、将来の地域経済に必要な政策は何か、地域活性化のための政策について考察を与えるための基礎知識を習得できるようになる。</p>				
提出課題				
<p>普段（平常時）の課題と、期末試験（課題）がある。</p>				
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック				
<p>課題を課した次の回で、解答・解説を行う予定です。</p>				
評価の基準				
<p>平常時の課題 30点 期末試験 70点 合計100点</p>				
履修にあたっての注意・助言他				
<p>配布資料（レジュメ）には空欄を設けます。印刷ができない環境にある人は、ノートをとるなどして各自で対応して下さい。 通信障害・端末故障による締切後の課題提出は受け付けませんので、時間に余裕をもって提出して下さい。</p>				

教科書				
.使用しない。				
プリント資料及び参考文献				
レジュメを配布する。				
さらに知識を深めたい場合は参考文献を参照すること。				
『地域経済学入門（新版）』山田浩之、徳岡一幸編、有斐閣コンパクト				
『都市と地域の経済学』奥田達郎・田淵隆俊・中村良平、有斐閣ブックス				
『都市・地域経済学への招待状（有斐閣ストゥディア）』佐藤 泰裕、有斐閣				
授業計画				
<p>第1回 イントロダクション 神戸を地域経済学的にみる 第2回 地域の概念（地域を経済学的に考える） 第3回 日本の地域構造（データでみる地域） 第4回 日本の人口移動（過去から現在にかけて） 第5回 東京一極集中とその問題点 第6回 ストロー効果 第7回 産業の立地 第8回 都市の形成（1）規模の経済 第9回 都市の形成（2）集積の経済 第10回 地域経済学からみた地域活性化政策とは？（1）地方の現状 第11回 地域経済学からみた地域活性化政策とは？（2）政策事例 第12回 コンパクトシティ政策 第13回 地域間格差 第14回 産業クラスター政策 第15回 神戸市の後発産業クラスター政策</p>				
授業形態（アクティブ・ラーニング）				
ア：PBL（課題解決型学習）				イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート				エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション				カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）				
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間				
<p>配布資料を使って授業を行うため、予習はしなくても良いが、毎回復習として、授業内容の要点を自分の言葉でまとめておくこと（2時間/回）。 また、数字のグラフで理解しなければならない内容を扱う授業回がある。このとき、数字の知識を忘れていた人は各自で数字の復習も行った上で、授業内容を理解する必要がある（2時間以上）。このほか、レポート課題の作成に復習が必要となる。</p>				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連				
<p>目標、を達成することで、社会的にみて望ましい自地域の個人行動、企業行動、政府行動を考えることができるようになる。これにより、ディプロマポリシーの「人間、社会、自然に関するこれまでの学問的成果の基礎を身に付けて、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察し、課題を提案することができる。」に到達する。</p>				
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述				
実務経験の有無及び活用				
備考				
<p>新型コロナウイルスの感染状況により、シラバスを修正する場合がある。</p>				